令和８年度関西広域連合都市農村交流現地検討会（開催レポート）

事業の目的

各地域の特色ある都市農村交流活動や取組事例について、関係者が一堂に集い、現地視察をはじめ意見交換を行うことにより、各構成府県市のさらなる都市農村交流活動の活性化を推進する。

開催概要

○日　程：令和８年９月 10 日（木）～11 日（金）
○場　所：徳島県美馬市、美馬郡つるぎ町
９月 10 日
・（事例紹介、意見交換）徳島県立西部防災館
・（農家民泊宿泊、農村生活体験）にし阿波地域
９月 11 日
・（ワークショップ）徳島県立西部防災館
・（直売所視察）貞光ゆうゆう館レストラン
○参加者：自治体関係者等 14 名

９月 10 日

○事例紹介「世界農業遺産ブランド認証野菜の取組」
講師：「田口農園」経営者　田口　真示氏
２０１８年に世界農業遺産として認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」の取組や経緯について紹介いただきました。
世界農業遺産ブランド認証野菜を活用した高付加価値農産品の販売による自身の農業経営の推移や、小規模でも農業経営を成り立たせるための経営の考え方について説明いただき、農業経営の観点からも継続可能なシステム構築を目指し、日々ご尽力されているとのお話をいただきました。

○事例紹介「にし阿波の教育旅行と農家民宿の取組」
講師：農家民宿「民宿安藤」経営者　安藤　洋子氏
「あんちゃんの宿」として、年間約１４０名を受け入れている農家民宿の取組について紹介いただきました。
農家民宿を始めたきっかけや、提供している体験内容について説明いただき、小さい頃の思い出として残してもらいたいとの思いで教育旅行の受け入れを行っているとのお話をいただきました。

○意見交換・質疑応答

ファシリテーター：一般社団法人そらの郷　福永　晃大氏

田口氏、安藤氏の事例発表を元に意見交換や質疑応答を行い、田口氏には農業経営における販売方法のポイントや、安藤氏には農家民泊の営業状況についての質疑がありました。

また、一般社団法人そらの郷が教育旅行で学生を受け入れている際と同様に、農家民宿への「入村式」が執り行われました。

○農家民宿泊・農村生活体験

参加者がグループごとに分かれ、にし阿波地域の農家民宿４軒で農家民宿に宿泊し、郷土料理の共同調理や民芸品の作成など、農村生活体験が行われました。

9 月 11 日

○ワークショップ「にし阿波での体験を活かしたわがまちの活性化」

ファシリテーター：一般社団法人そらの郷　福永　晃大氏

福永氏から、一般社団法人そらの郷の活動について説明いただいた後、農家民宿泊・農村生活体験の感想、体験内容、自分の自治体に帰って活かしたいことについて、グループワークを実施しました。

各グループから自身が農家民宿に宿泊し体験した内容を発表し、地域の魅力や資源の再発見や発掘、農業体験を契機とした移住への取組などに活用したいとの意見が出されました。

○直売所視察（貞光ゆうゆう館レストラン）

そば米などの『世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド』認証品の販売状況について視察しました。

参加者からの感想（抜粋）

・世界農業遺産と農泊を合わせた取組として地元でも参考にしたい
・民宿のオーナーが農業遺産の語り部として機能している点が素晴らしいと思った
・実際に宿泊することで農家民泊の実情を知り、今後、農泊を推進していくうえで行政としてどのように支援していくべきか考えるきっかけになった
・初めて農家民宿に宿泊して参考になった
・地域ならではの特色を知るため、他府県での農泊体験をしてみたい
・学びが多く、思い出深い研修になった

○1 日目の事例発表・意見交換





○農家民宿泊・農村生活体験





○2 日目のワークショップ







